

第3章 国民健康保険の状況

1 国民健康保険加入状況

一般地域居住者を被保険者とする中央市の国民健康保険（以下「国保」という。）の平成19年7月1日現在、20歳以上の国保の加入率は、男38.1%、女38.9%です。特定健診の対象となる40-74歳の加入数は、男2,666人（41.1%）、女2,728人（42.8%）計5,394人です。

平成20年4月から「高齢者の医療の確保に関する法律」において、74歳までの人が従来の医療保険に加入し、75歳（一定の障害のある方は65歳）以上の方は国保・健保・組合などに関係なく、新たな「後期高齢者医療広域保険制度」の適用を受けることになります。

国民健康保険加入状況

平成19年7月1日現在

男				女			
年齢	住民数	国 保		年齢	住民数	国 保	
		加入者	加入率			加入者	加入率
20-24	947	202	21.3%	20-24	965	195	20.2%
25-29	1,026	240	23.4%	25-29	913	194	21.2%
30-34	1,143	291	25.5%	30-34	1,102	271	24.6%
35-39	1,159	315	27.2%	35-39	1,063	238	22.4%
小計	4,275	1,048	26.5%	小計	4,043	898	22.2%
40-44	1,137	250	22.0%	40-44	996	198	19.9%
45-49	957	203	21.2%	45-49	956	228	23.8%
50-54	1,049	299	28.5%	50-54	1,052	246	23.4%
55-59	1,250	424	33.9%	55-59	1,176	450	38.3%
60-64	869	508	58.5%	60-64	839	542	64.6%
65-69	680	524	77.1%	65-69	729	565	77.5%
70-74	545	458	84.0%	70-74	630	499	79.2%
小計	6,487	2,666	41.1%	小計	6,378	2,728	42.8%
75-79	447	376	84.1%	75-79	522	356	68.2%
80-84	288	230	79.9%	80-84	484	326	67.4%
85-89	117	93	79.5%	85-89	307	190	61.9%
90 以上	60	40	66.7%	90 以上	216	153	70.8%
小計	912	739	81.0%	小計	1,529	1,025	67.0%
合計	11,674	4,453	38.1%	合計	11,950	4,651	38.9%

2 一人当たりの医療費等の推移

国保の医療給付内容は一般被保険者、退職被保険者本人及びその被扶養者の入院・外来とも3割の一部負担となっています。ただし3歳未満の乳幼児は2割、70歳以上の高齢者（老人医療受給者対象者を含む）については、一般所得者は1割、一定以上所得者は2割となっています。

老人、若人、退職者、及び被保険者全体の一人当たりの市の医療費は県平均より低く推移しています。

山梨県市町村別順位では、平成17年度は、特に被保険者一人当たりでは23位、若人は27位（29市町村中）と低い位置にいます。しかし老人と若人の医療費の比較をすると、4倍以上の差が生じており、世代間の違いを示しています。

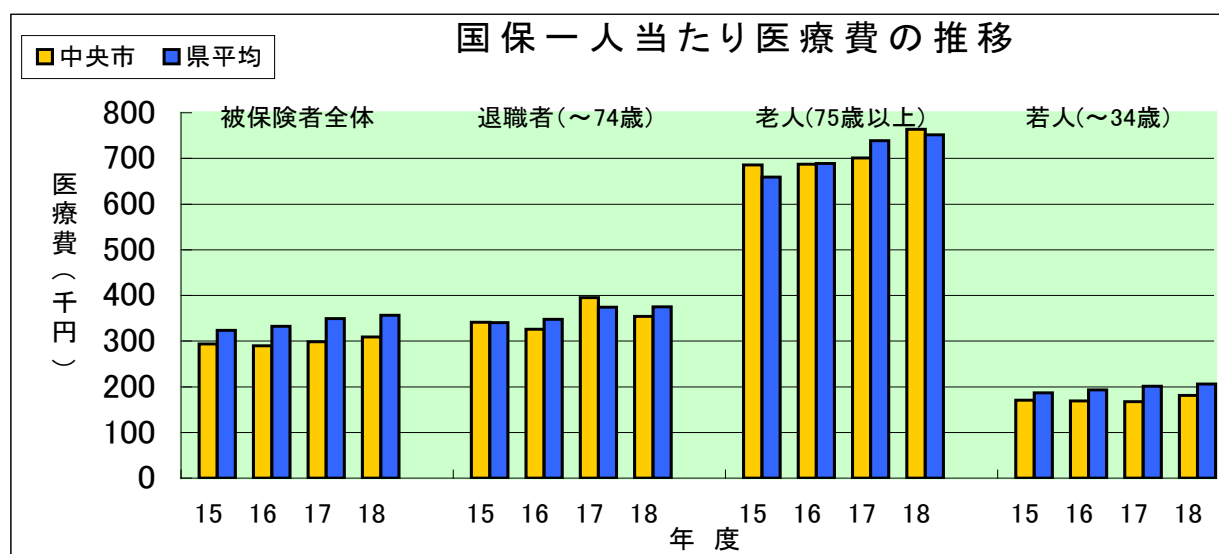
また退職者一人当たり医療は、県内5位、県平均より20,000円も高い状況です。

保険税率は17年度、18年度は旧町村の税率を適用した不均一課税であり、19年度は中央市として統一（均一）税率を適用した。一人当たりの調定額は18年度より約9%増えました。

一人当たり医療費の推移

年 度	被保険者全体		退職者(～74歳)		老人(75歳以上)		若人(～74歳)	
	中央市	県平均	中央市	県平均	中央市	県平均	中央市	県平均
15	293,839	323,590	341,061	340,650	685,484	659,207	170,965	186,886
16	289,440	332,219	325,747	347,584	687,641	688,949	168,896	192,775
17	298,336	349,300	395,216	374,524	700,783	739,178	167,508	200,981
18	308,967	356,544	354,230	374,873	763,437	751,735	180,825	206,288

グラフでみると



3 被保険者の治療状況（レセプト分析）

（１）ライフステージから

平成18年5月診療分の国保レセプトをみると、1ヶ月間の総医療費は2億3,700万円（年間推計 28億4,400万円）かかっています。

医療費からみると乳幼児期（0-4歳）は風邪や喘息が主流です。少年期（5-19歳）はう蝕が第1位で、予防可能な疾患です。少年期（5-19歳）～青年期（20-39歳）も歯の疾患が上位を占めています。

中高年期の40代は精神疾患が3位にはなっています。50代から高血圧性疾患が1位になり、老年期の60歳以上は糖尿病も上位に入っています。高血圧・糖尿病の問題は、脳血管疾患や心臓病、腎透析とさまざまな疾病を引き起こします。生活習慣病予防が医療費を抑制しますので、青年期からの取り組みが必要です。

また、男女別に医療費・件数をみると医療費の外来1位は、男性は腎不全、女性は高血圧性疾患です。腎不全は件数は少ないものの800万～900万円の医療費がかかっています。腎不全を起こす原因は様々ですが、糖尿病の合併症（糖尿病性腎症）や高血圧が続き、腎臓の組織が萎縮する腎硬化症などがあげられます。

高血圧・糖尿病は医療費の上位を占める脳血管疾患や心疾患を引き起こすので早くから生活習慣病予防に心がけなければなりません。

年齢別一人当たりの医療費の主な疾病（平成18年5月診療分）

年齢区分	医療費(円)	主な疾病	
0～4歳	8,445	う蝕	
5～9歳	6,876	う蝕	
10～19歳	4,944	う蝕	
20～29歳	5,893	う蝕	
30～39歳	10,506	う蝕	
40～49歳	11,876	う蝕	
50～59歳	14,716	高血圧	
60～69歳	24,225	高血圧	
70～歳	47,854	高血圧、胃、関節	

(2) 生活習慣病全体の分析

平成 18 年 11 月分の国保のレセプトから生活習慣病をみると、高血圧症が最も多く、40 歳代から 50 歳代に急増しています。

また、中央市では糖尿病患者で人工透析をしている人は 11 人で現在腎障害を併せ持つ人が 65 人います。透析に移行しないよう予防する必要があります。

高脂血症の 30 歳代男性 10 人のうち 5 人は糖尿病を併せ持っていました。また糖尿病患者のうち 64.0%は高血圧症、47.2%は高脂血症、37.6%が虚血性心疾患を併せ持っていました。重症化を予防していかなければなりません。

レセプトから生活習慣病全体の分析

H18.11月分

様式3-1	生活習慣病全体のデータ分析結果 - 生活習慣病で最も多い疾患は高血圧症で69. 5%である^{*1)}。 - 人工透析者は、男性が6人、女性が5人である^{*2)}。 - 腎障害者は65人であった。人工透析へ移行のリスクが高い^{*2)}。 - 糖尿病、虚血性心疾患ともに50歳代から60歳代にかけての罹患割合が高い。 - 高血圧症者は40歳代から50歳代が急激に増えている。 - 男性は、多い順から高血圧症(69. 3%)、糖尿病(46. 5%)、虚血性心疾患(35. 1%)である。 - 女性は、多い順から高血圧症(69. 7%)、高脂血症(50. 0%)、糖尿病(33. 3%)である。
様式3-2	糖尿病のデータ分析結果 - 糖尿病患者は年齢が上がるごとにその割合が増加している。 - 糖尿病患者は50歳代から60歳代にかけて2. 26倍に増えている。 - 糖尿病患者のうち64. 0%は高血圧症、47. 2%は高脂血症、37. 6%が虚血性心疾患を併せ持っている^{*4)}。 - 糖尿病合併症で多いものは、神経障害、腎障害、網膜障害の順である。 - 腎障害者は65人で、透析に移行する可能性がある。 - 男性の糖尿病は50歳代から60歳代にかけて2. 2倍に増えている。 - 女性の糖尿病は50歳代から60歳代にかけて2. 4倍に増えている。
様式3-3	高血圧症のデータ分析結果 - 高血圧症者で合併症の多いのは、高脂血症(39. 5%)、糖尿病(36. 5%)、虚血性心疾患(35. 2%)である。 30代の高血圧症者のうち、11. 8%に脳血管疾患があり、41. 2%に高尿酸血症があり、35. 3%に虚血性心疾患がある。 - 男性の高血圧症は40歳代から50歳代にかけて2. 5倍に増えている^{*1)}。 - 男性の高血圧症で糖尿病を合併している人は42. 4%で最も多く、次いで虚血性心疾患(37. 5%)である。 - 女性の高血圧症は40歳代から50歳代にかけて3. 3倍で男性より多い^{*1)}。 - 女性の高血圧症で高脂血症を合併している人は44. 2%と最も多く、次いで虚血性心疾患(33. 1%)、糖尿病(31. 1%)である。
様式3-4	高脂血症のデータ分析結果 - 高脂血症者は年齢が上がるごとにその割合が増加している。 - 高脂血症者のうち64. 6%は高血圧症、44. 1%は糖尿病、36. 9%が虚血性心疾患を併せ持っている^{*5)}。 30代男性の高脂血症者のうち5人は糖尿病である^{*3)}。 - 男性の高脂血症者は、高血圧症の割合が69. 4%である。 - 女性の高脂血症者は50歳代から急激に増加している。 - 女性の高脂血症者は、高血圧症の割合が61. 6%である。
様式3-5	虚血性心疾患のデータ分析結果 虚血性心疾患者のうち73. 9%は高血圧症、47. 4%は高脂血症、45. 1%が糖尿病を併せ持っている^{*5)}。
様式3-6	脳血管疾患のデータ分析結果 - 脳血管疾患者のうち74. 2%は高血圧症、次いで高脂血症(36. 4%)、糖尿病(36. 4%)である。 30歳代40歳代の男性で10人の脳血管疾患がいる。 - 男性の脳血管疾患者の75. 2%に高血圧症を併せ持つ。 - 男性は女性より脳血管疾患の割合が多い。
様式3-7	人工透析のデータ分析結果 - 人工透析者では、高血圧症を併せ持つ人が全体の92. 9%である。 30歳代で1人、40歳代で4人の透析患者がいる。 - 糖尿病以外の人工透析では、女性より男性の透析患者が多い。 - 男性の人工透析者のうち高血圧症が90. 9%、次いで高尿酸血症(54. 5%)、虚血性心疾患(45. 5%)を併せ持っている。

課題

- *1 生活習慣病の中では、高血圧症者が最も多い。また、40歳代から50歳代に急増している。
- *2 糖尿病患者で人工透析をしている人は11人で、現在腎障害を併せ持つ人が 65人(予備群として考えられる者)いる。
- *3 高脂血症の30歳代男性10人のうち5人は糖尿病を併せ持っている。
- *4 糖尿病患者のうち64. 0%は高血圧症、47. 2%は高脂血症、37. 6%が虚血性心疾患を併せ持っている。
- *5 高脂血症者、虚血性心疾患者のうち6～7割は高血圧症を併せ持ち、4割が糖尿病を併せ持っている。



- ① 若年の高血圧を予防する
- ② 透析に移行しないように予防する人が65人いる。 (重症化の予防)